

普遍的な視点からの学習

「宇宙人に人間を説明すると・・・」

先月号に掲載した「人権教育とは」の中で述べました普遍的な視点からの人権教育について、面白い授業を紹介し、この授業は、「あわ人権学習ハンドブック」に掲載されており、中川喜代子さんの「人権とは？」という著作を参考にしているものです。

紹介の前に確認しておく、普遍的な視点に立った学習とは、人権教育に欠くことのできない普遍的な真理や価値に迫っていく学習のことであり、人権そのものに対する理解を深めていく学習のことです。

この授業は、「宇宙人に対し、地球に住む人間を説明する定義を話し合う」ことを通して、人権についていろいろ考え、気づきを促すことをねらいとしています。

授業の進め方は次のようになります。

- ①個人で宇宙人への説明を考える。
- ②小グループでそれぞれの考えを出し、話し合っって意見をまとめる。

③話し合った結果を発表し、他のグループの意見も聞く。

④話し合いや他のグループの発表を聞いて、気づいたことや感じたことを発表する。

このような流れで授業を進めていくと、結構「人間」というものの定義が難しいことが分かります。②④のそれぞれの段階で意見を交換していく中で、「直立二足歩行である動物」と定義した場合、車いすの必要な方はどうするか？また、「男女二つの性がある」と単純に定義してしまっているのだろうか？など子どもたちに段々と新たな気づきもたちらが生まれてきます。そして、自分たちが考えた定義は十分なものなのだろうか、と考えを深めていくうちに、少数者（マイノリティ）の方々の人権について考えるようになるのです。さらに、今後の展開を考えると、法整備が進み、バリアフリーなどの考え方が浸透しつつあるとはいえ、多数者を基準とした考え方やルール、生活様式など、改善す

べき点が多々あるという現実にも考えが広がっていくのではないのでしょうか。

この授業を通して子どもたちは、人間の多様性について気づいていくと同時に、克服すべき個別の人権課題にも気づかされ、今後の学習にもつながっていきます。

人権教育においては、学習者の気づきをとっても大切にしています。問題点や課題に気づくということこそが、自己の変容の第一歩となるからです。授業を受けた子どもたちにとって、貴重な気づきの体験となつたことを願っています。

「人権とは？」 中川喜代子著  
参考・あわ人権学習ハンドブックより



市人権推進課(教育庁舎1階)  
☎ 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail:jinkensuisin@city.komatsushima-i.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (347) 松並敦子・選

紹ちゅうの着物しや紗しやの帯し締しめて「小こ簾すの戸」を舞かえば微かかに涼風りやうふうの吹ふく  
田浦町 太田カツミ

生あきて在あることが不思議ふしぎに思おもわるるある日ひある時ときある朝あ早く  
田浦町 西 照子

ばあちゃんばあちゃんは広告こうこくに弱よいと孫まご笑わらう今日けふも届ときぬ富山とみやまの常備薬じょうびやく  
横須町 三宅 敏恵

爽さわやかな風かぜにゆさゆさ三度豆さんどまめ筑たに山盛やまもり娘むすめの笑顔えんご待まちつ  
赤石町 田原トシ子

目めまいするはたまた地震ちゆうしんかニユースニュースあらず臥ふして治おさまる時ときを待まちつのみ  
江田町 深田 伴子

スイカには塩しほか砂糖さとうと言いう論議ろんぎしてる間まにキンキン冷ひやえる  
立江町 大西 和美

寒ふくても時期じきが来きたれば花開はなひらく朝あな朝あなに話かし掛かけ来きる  
榊さか淵ふち町 松下 玉枝

若わ者は都会たいかいにあこがれ帰かえらない年寄としより二代田舎にないたなは淋さびし  
坂野町 橋本千代乃

青石あおいしの四角四面しやうかくしやうめんのドイツどいつ墓かぶるさと恋こしとドイツどいつに向むかきて  
横須町 福島 夢栄

手荷物てにものぶを持もちましようかと少年せうねんの声こゑにうるうるうるうるの階段かいはん  
立江町 湯浅かや子